

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	給排水設備の災害レジリエンス検討小委員会		主 査 名：西川 豊宏 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (水環境運営委員会)		委員長名：羽山 広文 主 査 名：西川 豊宏
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2017 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	給排水衛生設備分野において実用化された環境配慮(省エネ・省資源)技術の動向を考慮に入れ、災害に直面した際のこれら技術の有効性や課題点を精査し、建築物に求められる事業継続性(BCP)と居住継続性(LCP)について検討する。また、給排水設備原単位、有効な設備耐震対策等といった現行の基規準と相反する事項の有無についても調査し、給排水設備の災害レジリエンスの向上に資する情報を整理・提案する。		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	主査：西川豊宏(工学院大学) 委員：大塚雅之(関東学院大学)、進藤宏行(日建設計総合研究所)、中野民雄(静岡文化芸術大学)、水谷国男(東京工芸大学)、渡辺荘児(森ビル)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2015 年度予算	28,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 構成委員より災害時の給排水衛生設備の被害に関するの情報提供が成されるところとともに、過去の文献調査も同時に行った。 2. 大地震時に対する給排水衛生設備のハード的な脆弱性と震災後対応の実例に基づく課題点を抽出した。
委員会活動の問題点 ・課題	1.問題点：特に無し。 2.課題：給排水衛生設備の地震災害に着目して検討を進めているが、極端気候への対応といった他の災害リスク検討の優先順位、公共インフラを含めた検討領域の考え方などが検討課題である。

2015 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>C</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>当初活動計画の通り、今年度計 5 回 (2 月 23 日の本年度第 5 回小委員会を含む)、小委員会を開催した。</p> <p>本年度は、当小委員会の 2 年間の活動計画の前半期間に当たり、各回の小委員会では、各委員より災害時の給排水衛生設備の被害の文献調査結果や常時・非常時に求められるライフライン設備に関する現況調査 (実例紹介など) に係る情報収集がなされ、小委員会での報告・議論を通じて、委員間での情報共有を図ることができた。</p> <p>そして、この小委員会を中心とした活動は、本年度の科学研究費補助金 (基盤研究(C)の申請にも繋がっており、給排水衛生設備の災害レジリエンス検討を体系的かつ本格化するための下地作りが着実に進められているものと評価する。</p> <p>その一方で、地震災害を優先して検討を進めているなか、極端気候への対応といった他の災害リスク検討への緊急性も認められ、公共インフラを含めた委員会活動の領域についての再検討が今後の課題として残された。</p> <p>以上より、本年度の活動計画・目標に対しては概ね計画通りで推移しているものの、検討すべき新たな災害リスクを加えたため、総合評価としては達成度 60 から 70%のC評価とした。今後は、新たな課題については継続して情報収集に努め、次年度の最終成果に結びつける予定である。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。